

道北地域の景気の基調判断を据え置きました（2013年2月）

皆さん、こんにちは。いつもこのサイトをご覧いただき、誠にありがとうございます。

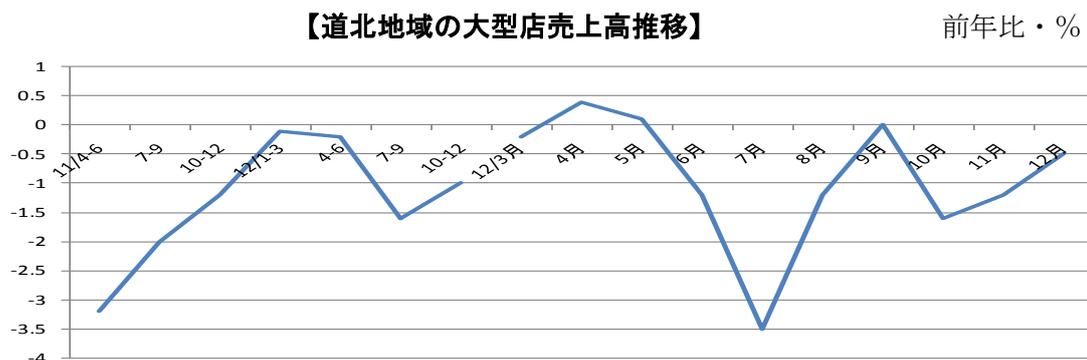
さて、2月15日に公表しました「[金融経済概況（道北地域）](#)」では、道北地域の景気の基調判断を据え置き、「横這い圏内で推移している」としました。この基調判断は5か月連続となります。需要項目別にみると、個人消費（観光を含む）は持ち直しの動きが鈍化しています。12月の大型店売上高は、悪天候で客足が鈍ったことから微減となりました。自動車販売は前年（12月にエコカー補助金開始）の裏から減少しました。観光は悪天候や春節時期のずれ（今年は2月、昨年は1月）に伴う影響がみられていますが、均してみれば緩やかに持ち直しています。公共投資は下げ止まっています。設備投資は下げ止まっています。住宅投資は、一進一退の動きとなっています。この間、雇用情勢は労働需給面を中心に改善の動きが続いています。生産は強弱区々の動きとなっています。

足もと円高修正や財政出動の効果がはっきりと表れている先はごく一部にとどまっていますが、先行きに対する期待は製造業の一部、観光、建設等で高まってきています。一方、所得環境が引続き厳しい状況にある中、北海道で支出ウエイトが高い灯油・ガソリン価格が昨年12月から上昇しており、消費支出への影響が懸念されます。こうした好悪材料の綱引きの結果がどうなるかで景気の方角性が決まりますので、今後の帰趨に注目しています。

主な特徴点は下記の通りです。それ以外については、[金融経済概況](#)をご覧ください。

まず、個人消費（観光を含む）です。

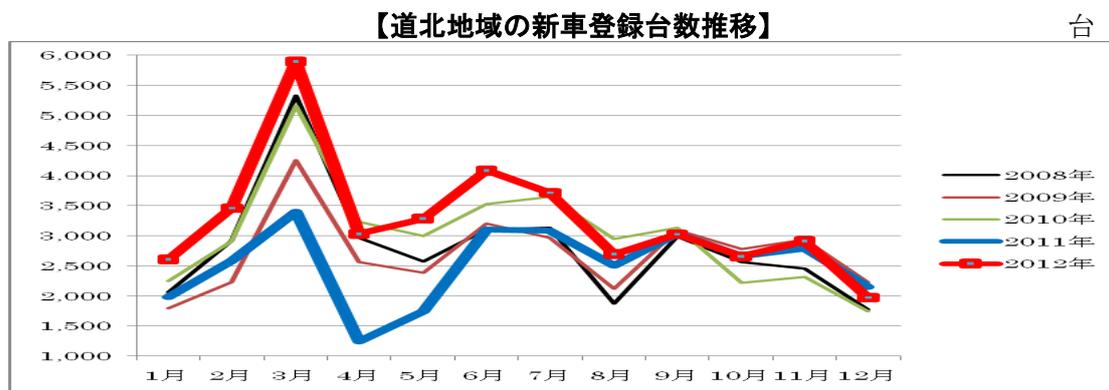
12月の大型店売上高は、気温低下や降雪の影響から冬物の一部（防寒肌着や除雪器具、長靴など）に動意がみられましたが、年末の豪雪に伴う来店客の減少等から、△0.5%と微減となりました。



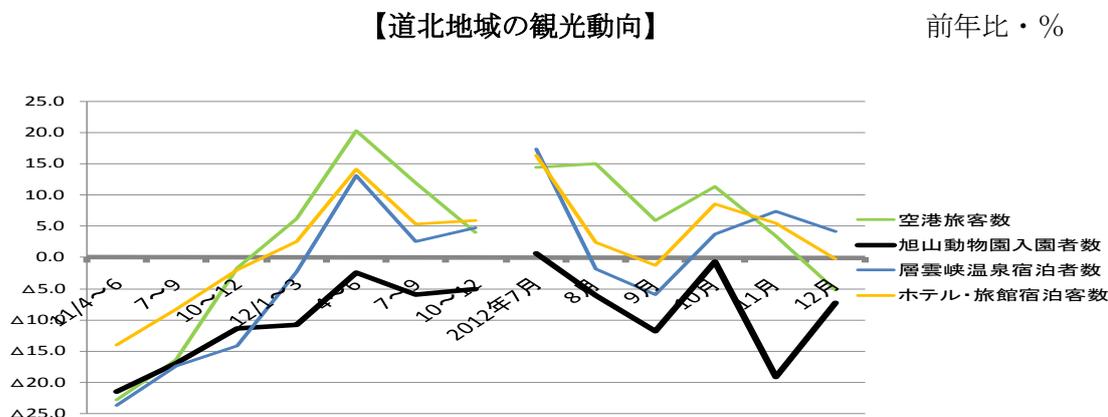
1月入り後も大型店は天候に振り回され、総じて冴えない動きが続いています。最近ごく一部の小売店（時計・宝飾専門店）から、「1月は月初の悪天候にもかかわらずますますの売上げとなり、景気回復への期待の高さを実感した」とする声が聞かれましたが、大型店ではまだそうした動きは明確にはみられていません。一方、北海道で支出ウエイトが高い^(注)灯油・ガソリン価格が昨年12月から上昇していることは懸念材料であり、悪影響が出ないかどうか、今後の動向を注視しています。

(注) 消費者物価指数における灯油のウェイト（1万分比）は北海道 232、全国 50。
ガソリンのウェイトは北海道 271、全国 229。

新車登録台数はエコカー補助金終了（2012年9月21日交付申請受付分で終了）後、前年比では概ね横這い圏内で推移してきましたが、12月は、2011年12月からエコカー補助金が開始し水準が嵩上げされているため、△8.1%とマイナスになりました。今後、エコカー補助金の効果がみられた前年の裏要因から前年比では当面減少が続くことが予想されます。もっとも、軽自動車等は好調であり、大きな反動減がみられた前回エコカー補助金終了（2010年9月）後の動きとは若干異なっています（前々年<2010年12月>比では+12.7%）。

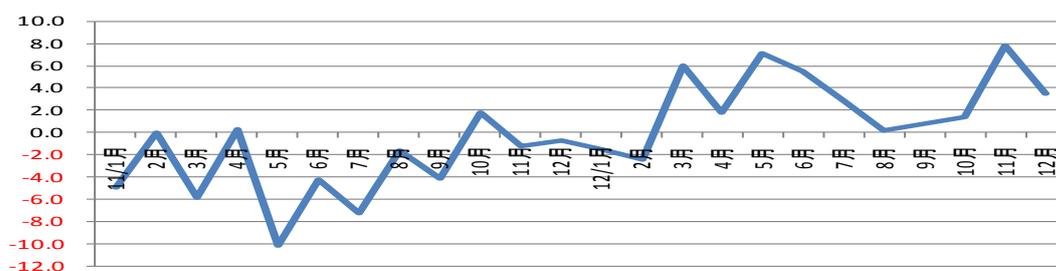


観光は春節の時期の相異（今年は2月、昨年は1月）によるインバウンド観光客の減少や悪天候の影響がみられていますが、基調的には緩やかな持ち直し傾向が続いています。四半期でみると、2012年4～6月時に前年の裏要因もあって大幅に増加した後、旭山動物園を除き、7～9月、10～12月とも増加基調が続く指標が目立ちました。12月の層雲峡温泉宿泊客数は、台湾等インバウンド観光客の増加を主因に増加しました。12月の空港旅客数は旭川空港における国際チャーター便や成田便の減少等から減少しましたが、新千歳空港経由の来道者数は+9.8%（北海道観光振興機構調べ）となり、新千歳空港から層雲峡等に向かう観光客も多かった模様です。



旭川地区における宿泊施設の客室稼働率の前年差推移をみると、下図の通り、3月以降、震災のあった前年を上回っており、改善の動きが続いています。11月の前年差は+7.8%、12月は+3.5%となりました。更年後も、一部ホテルからは「客室稼働率だけでなく宿泊単価も上昇し、宴会需要も増加傾向」との声が聞かれました。

【旭川地区の宿泊施設の客室稼働率の前年差推移】 %ポイント



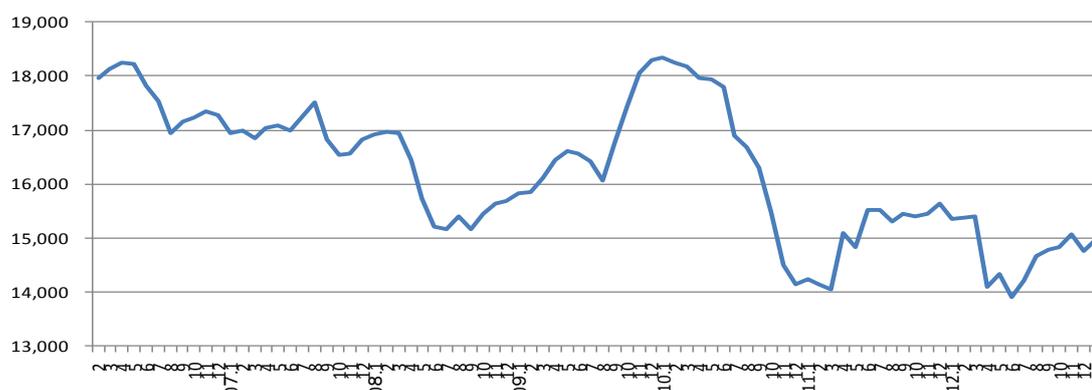
1月は、春節の時期のずれ（今年は2月、昨年は1月）の影響からインバウンド観光客が大幅に減少したほか、悪天候による交通機関のダイヤの乱れの影響もあって、宿泊客が一時的に減少した先が目立っています。とりわけ、層雲峡地区では冬季のピーク時に台湾等インバウンド観光客の比率が大きく高まる（3割以上となるホテル・旅館もあります）だけに、春節の時期のずれの影響は旭川市内のホテルよりも大きかった模様です。もっとも、2月は旭川冬まつり（札幌雪まつり）と春節の時期が重なったことから、好調となっています。冬まつりと春節の時期が重なったことに関しては、先月、ピーク時期が短くなり、「満室期間が短くなる分、1-2月通算では減少要因」とコメントしましたが、現時点では影響はさほどでもなく、1月に宿泊客数が大幅に減少したホテル・旅館からも、「インバウンド観光客を中心に、均してみれば引続き持ち直し傾向。円高修正の動きもあって、今後ともインバウンド観光客の持ち直しを期待している」との声が聞かれました。

道内各地の冬季イベントは、まずまず好調でした。道北で最大規模の旭川冬まつり（2/6～11日）の入場者数は、好天に恵まれ、前年に比較し期間が1日長かったこともあって、87.1万人（前年：68.1万人）と前年比+27.9%の増加となりました。飲食店の売上げは過去最高となりました。網走オホーツク流氷まつりの入場者数も増加しました（7.5万人、前年比+4.2%）。

公共投資は下げ止まっています。12月の公共工事請負金額をみると、上川総合振興局管内で大型案件（東川小学校建設＜建築物＞＜2,504百万円＞）の請負があったことから上川総合振興局が前年比+2.6倍と大幅増加となり、3総合振興局合計でも2か月振りに増加しました（+62.6%）。振れを均すため後方12か月移動平均でみると、下図の通り、下げ止まっています。人手や機材の不足や積雪による工事の遅れもあって、期末にかけ繁忙度は一段と高まっています（なお、建設業において人出不足が深刻化している点については、雇用動向でもコメントしましたので、ご参照下さい）。

来年度以降、新年度予算や補正予算の発注が本格化するに従い、公共投資は底堅く推移していく見込みです。供給制約（機材不足や発注者側を含む人出不足）に伴う悪影響を懸念する声も聞かれていますが、これは「予算増額分がすべて年度内に消化されるとは限らない」という意味であって、先行き公共投資が減少するという訳ではありません。

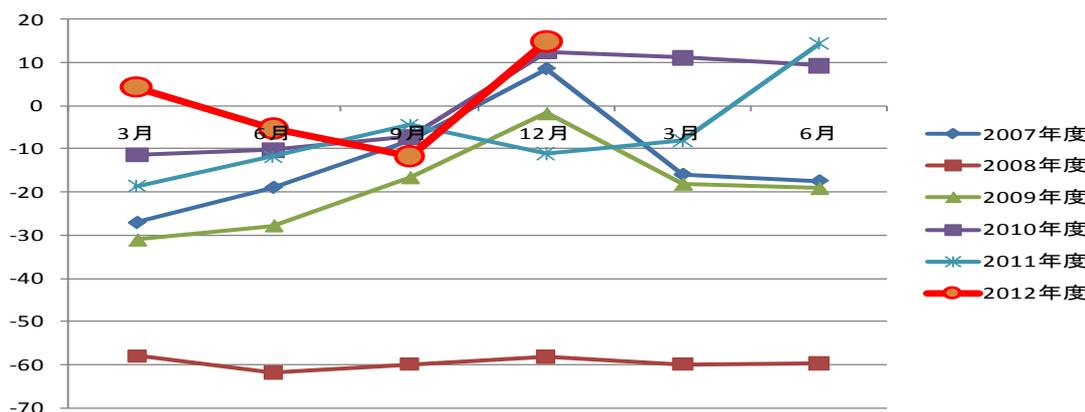
【道北地域の公共工事請負金額推移（後方12か月移動平均）】 百万円



設備投資は、下げ止まっています。

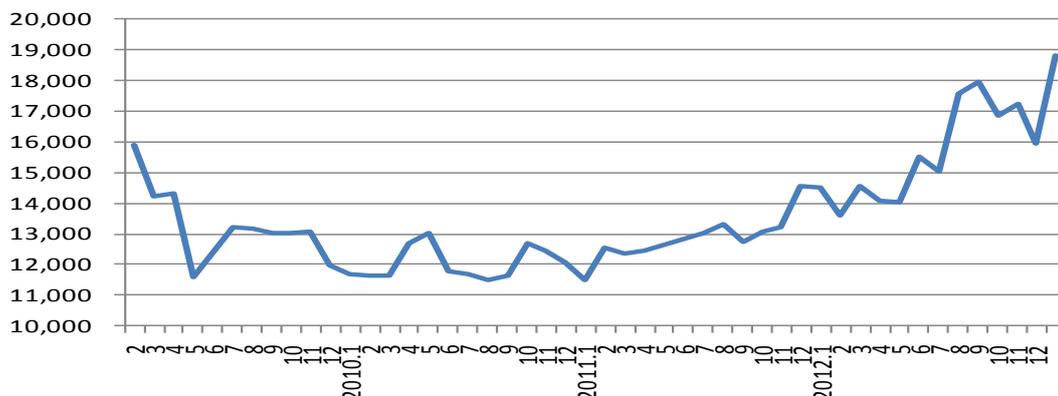
道北地域の「企業短期経済観測調査」（2012年12月調査）における2012年度の設備投資計画は9月調査比+29.9%上方修正され、増加（+14.8%）に転じました。9月調査で円高や欧州経済の減速に伴う製造業での下方修正を主因に下方修正となった後、12月調査では新規事業立ち上げ等のための投資に伴う製造業での上方修正から全体でも上方修正となりました。

【道北地域の短観・設備投資計画の修正状況推移】 前年比・%



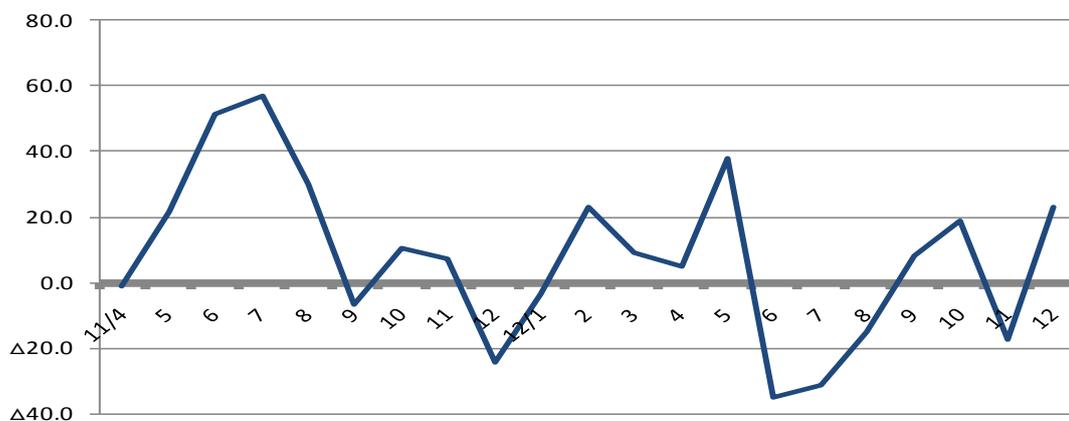
設備投資と関連性がある建築確認申請床面積（非居住用）については、12月は2か月振りに増加しました。振れを均すために後方12か月移動平均でみると、下図の通り2011年以降持ち直し傾向が持続しています。

【主要4市の非居住用建築確認床面積推移（後方12か月移動平均）】 m²



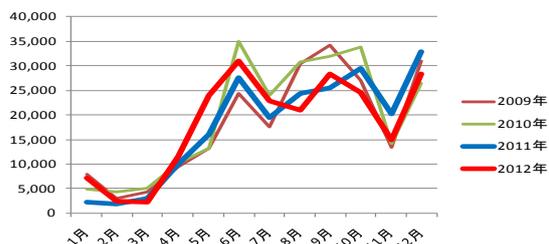
住宅投資については、昨年秋以降、一進一退の動きとなっています。12月の新設住宅着工戸数は2か月振りに増加しました。2012年6～8月に前年（住宅エコポイント終了前の駆け込み需要等から大幅に増加）の裏要因から大幅に減少した後、9月以降は9、10月に増加、11月は減少、12月は増加となりました。2012年合計は△4.5%となりました。内訳を見ると、持家は4か月連続で増加しており、比較的しっかりとした動きとなっています。

【道北地域の新設住宅着工戸数推移】 前年比・%

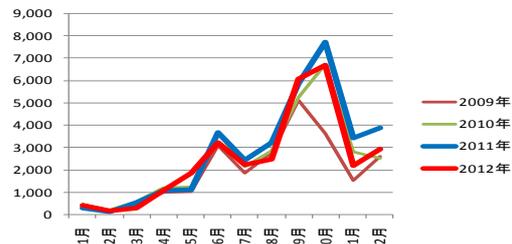


12月のオホーツク漁業（稚内、網走、紋別、枝幸港の4港合計）は、ほたて等の減少から、数量（△13.9%）、金額（△23.9%）ともに減少しました。2012年合計では数量が増加（+2.6%）した一方、金額は減少（△11.0%）しました。これは、単価が安いすけそう、ほっけが増加した一方、単価の高いほたて、かれいが減少したことによるものです。この間、秋鮭は数量・金額とも微増となりました。すけそう、ほっけは春に、ほたては年後半に最盛期を迎えますので、数量・金額とも年前半は前年比で増加、後半は減少となりました。

オホーツク漁業水揚数量 単位・トン



オホーツク漁業水揚金額 単位・百万円



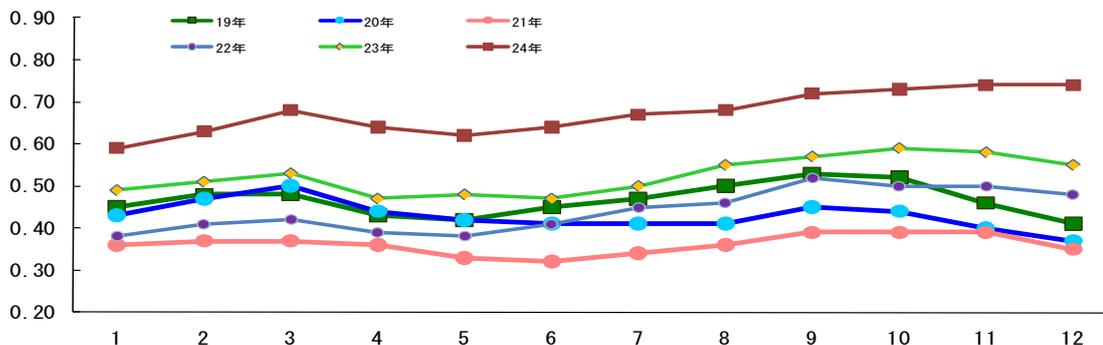
製造業は、強弱区々の動きとなっています。製材の生産は自動車等向けこん包材需要の減少等から10か月連続で減少しました。もともと、円安に伴う輸入品の流入減少や先行きの需要増加期待からごく足もと流通商社が在庫手当てに動いており、需給は改善傾向にあります。合板は、生産量では手間のかかる高付加価値品へのシフト継続等から減少したものの、フル生産体制が続いています。紙・パルプは、雑種紙が増加したものの、印刷用紙が最終需要の低迷等から大幅に減少し、全体でも減少しました。電子部品関連は、一部製品の作り込みから増加しました（合板は11月、その他は12月計数に基づく）。

雇用情勢は、労働需給面を中心に持ち直しの動きが続いています。

労働需給は改善しています。12月の有効求人倍率は、北見地区は前年を下回ったものの、その他の3地区で前年を上回りました。旭川地区の有効求人倍率（下グラフ参照）は、前年を上回る状態が続いています。12月の旭川地区における常用新規求人数は+23.8%の増加となりました。業種別には建設（+37.5%）、社会保険・社会福祉・介護（+71.8%）などで増加しました。労働需給面では改善の動きが続いているものの、求人・求職間の構造的なミスマッチ（たとえば12月の旭川地区の職業別有効求人倍率<パートを除く常用>をみると、一般事務員は0.20倍、ホームヘルパー・ケアワーカーは1.89倍）の存在（求人があっても新規雇用に結びつきにくい）や所得環境の厳しさ（道職員の冬季賞与は減少、北海道中小企業家同友会等の統計でも冬季賞与は幾分減少等）を勘案し解釈する必要があること、従来と変わりありません。

【旭川地区の有効求人倍率推移】

倍



公共投資の項目で述べました通り、建設業において人出不足が深刻化しています。下記は、建設業景況調査（北海道建設業信用保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、西日本建設業保証株式会社調べ）の結果ですが、今期の経営上の問題点として人出不足をあげた企業の割合がこのところ増加しており、鉄筋工、型枠工ともに確保が困難であると回答した企業の割合も増加しています。北海道はいずれも全国平均よりも割合が高く（鉄筋工、型枠工の確保に関しては全国で一番です）、人出不足の影響がより深刻になっています。

今期の経営上の問題点として人出不足をあげた企業の割合										
	全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
2010年10～12月(震災前)	9.2	7.7	7.6	8.6	7.4	8.2	8.4	14.7	10.7	11.5
2012年7～9月	22.6	22.7	47.1	20.4	18.0	14.9	20.4	16.4	16.8	16.9
2012年10～12月	28.8	29.5	48.9	25.2	24.6	21.1	29.6	22.8	25.5	25.7
鉄筋工の確保が困難であると回答した企業の割合										
	全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
2010年10～12月(震災前)	5.0	6.2	5.4	4.6	4.3	4.7	5.6	4.3	2.7	6.2
2012年7～9月	13.2	19.7	18.8	16.6	8.2	9.2	13.3	5.5	9.1	10.5
2012年10～12月	15.5	23.4	17.2	19.5	6.0	10.4	18.1	10.9	6.9	17.0
型枠工の確保が困難であると回答した企業の割合										
	全国	北海道	東北	関東	北陸	東海	近畿	中国	四国	九州
2010年10～12月(震災前)	6.5	11.0	5.7	6.2	7.4	3.9	3.3	6.9	4.0	8.6
2012年7～9月	16.8	23.0	22.1	21.6	12.1	12.9	12.3	10.5	11.2	14.5
2012年10～12月	21.4	27.6	27.1	23.8	16.1	12.7	18.6	14.9	15.9	25.7

（「建設業景況調査」、北海道建設業信用保証株式会社、東日本建設業保証株式会社、西日本建設業保証株式会社）

2013年2月15日

荒木 光二郎